

令和6年度 徳島県立小松島高等学校 学校評価 総括評価表

＊「評定」の基準 A：十分達成できた、B：概ね達成できた、C：達成できなかった

自 己 評 価						次年度への課題と 今後の改善方策	
スクール・リ-及び重点課題	担当	項目	具体的目標	活動計画と評価指標	評 価		
【育成を目指す資質・能力】 Ⅰ 自分を知り、目標を持ち、前進できる、自分とむきあう力の育成 Ⅱ 人と関わり、相手を認め、協力し合える、人とむきあう力の育成 Ⅲ 世界・地域を知り、社会貢献できる、世界とむきあう力の育成 【令和6年度重点課題】 ①主体的・対話的で深い学びの実現（授業改善） ②キャリア教育の充実 ③生徒主体の活動の充実 ④スタディサブリ活用推進 ⑤開かれた学校づくりの推進 ⑥働き方改革の推進	企画推進課	①	・新学習指導要領に従い、観点別評価を定着させることにより、主体的・対話的で深い学びを実現させる。	<u>活動計画</u> ・これまでの評価の仕方を踏まえ、観点別評価のあり方を教員で共通理解を図り、定期考査の問題や通知表の表記など、新しい評価の仕方を改善する。 ・全校集会や学年集会において、学びと評価のつながりについて周知する。	<u>実施状況</u> ・観点別評価の仕方について各教科で共通理解を図り、考査問題や授業における評価が定着しつつある。 ・集会において意識付けを行った。	<u>評定</u> A	・年度ごとに評価方法について見直し、生徒の学びの向上につなげる。
				<u>評価指標</u> ・観点別評価に関する設問で理解している割合を80%以上にする。	<u>達成度</u> ・生徒による「観点別評価による成績について理解ができた」の評価において、やや当てはまるを含めて92%であった。	<u>所見</u> 観点別評価の実施が3年目となり、すべての教員が行うこととなって共通理解ができ、生徒にも定着してきたと思われる。	
				Ⅲ ③	・各行事で生徒主体の活動を奨励する。		
	<u>評価指標</u> ・体験入学参加生徒数の目標を250名以上とする。実施できない場合は、ホームページ等で学校紹介を行う。 ・オープンスクール来校者の目標を250名以上とする。	<u>達成度</u> ・体験入学参加生徒数は341名であった。 ・オープンスクール来校者は150名であった。	<u>所見</u> ・体験入学では、中学生が本校の良さを知ってもらう良い機会になった。本校生にとっても、体験授業や体験入部で活動することにより、得るものがあった。 ・オープンスクールでは、本校生徒の活動を来校者に見ていただき、概ね好評であった。				
	キャリア支援課	②-1	・生徒の実態に応じた学力向上策を検討し、きめ細かな進路指導を推進するとともに、将来に向けた進路目標の早期設定を支援する。			<u>活動計画</u> ・松高セミナーや夏季補習、冬季補習を通し、時間を有効活用し自主的に学習に取り組む姿勢を身につける。校内学力テストや校外模擬試験等に意欲的に取り組む。	<u>実施状況</u> ・松高セミナーや夏季・冬季補習では、生徒が主体的に取り組めるよう、事前に活動内容や目標を生徒に示した。
				<u>評価指標</u> ・進路決定率を100%とする。	<u>達成度</u> ・3年生の96%が1つ以上の合格を得ている。（3月17日現在）	<u>所見</u> ・自分の志望する進路を目指して最後まで粘り強く取り組む生徒が多い。	
②-2 Ⅰ		・自己管理能力やプランニング能力を鍛え、自ら未来を切り開く能力を身につける。	<u>活動計画</u> ・キャリアパスポート(松高・未来のための手帳、スタディサブリ)を活用し、体験の記録と見通しや振り返りを行う。	<u>実施状況</u> ・全校生集会や学年集会時に記録を残すことの重要性について触れ、自分とむきあうことを促した。	<u>評定</u> B	・松高・未来のための手帳の記入及び活用を習慣化することで、自らの学びや成長を客観的に捉えたり、スタディサブリの学習動画を積極的に活用させることで、進路実現に結び付けさせたい。	
	<u>評価指標</u> ・キャリアパスポート（松高・未来のための手帳、スタディサブリ）を活用して受験対策を行った生徒を80%以上にする。		<u>達成度</u> ・今年度の3年生において受験対策で手帳やスタディサブリを活用した生徒は71%であった。	<u>所見</u> キャリアパスポートの中で役立ったと感じるのは、予定や定期考査範囲の記入や学習時間の記録、スタディサブリの学習動画・問題演習等であった。			
キャリア支援課(図	② Ⅰ	・読書への関心を高め、読解力と思考力	<u>活動計画</u> ・図書館だよりで幅広い資料を紹介すると	<u>実施状況</u> 図書館だよりで新着図書を紹介や企画展示の案内を行った。企画展示	<u>評定</u>	・読書習慣が身に付いていない生徒も多く、読書への関心	

<p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>I 自分を知り、目標を持ち、前進できる、自分とむきあう力の育成</p> <p>II 人と関わり、相手を認め、協力し合える、人とむきあう力の育成</p> <p>III 世界・地域を知り、社会貢献できる、世界とむきあう力の育成</p> <p>【令和6年度重点課題】</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの実現（授業改善）</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④スタディサプリ活用推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	書)	III	を養い、広い視野を身につける。	ともに様々なテーマの企画展示を行う。	は季節に応じたテーマや、授業と連携した内容で行った。	B	を高めるのは容易ではないが、各方面と連携しながら図書館での様々な取り組みを通して、生徒の読書意欲を促進させていきたい。
				<u>評価指標</u> ・図書館だよりを年10回発行し、企画展示を年間5回以上行う。	<u>達成度</u> 図書館だよりは8回、企画展示はミニ展示を含め10回以上行った。（1月末現在）	<u>所見</u> 図書館だよりや企画展で様々な本を紹介し、幅広い分野の本を手取る機会となった。	
	まなびプロジェクト推進課	① ⑤ ④	・多くの教員にタブレットを活用してもらい、生徒の探究心や主体性を養うことにつなげる。 ・生徒及び教員にスタディサプリ活用を推進する。	<u>活動計画</u> ・教員を対象に教育クラウドの使用を呼びかける。 ・まなびイベントの開催	<u>実施状況</u> ・教育クラウドの使用例について教職員を対象と通信を発行した。 ・まなびイベントを年間9回実施した。	<u>評定</u> A	・タブレットを授業内で使用した授業が増え、生徒のICTを学習に活用する能力は向上している。 ・スタディサプリを利用して個別に最適化された学びを提供できるようになった。
				<u>評価指標</u> ・教育クラウドを授業で使用する者の割合 A:60%以上 B:40%～59% C:40%未満 ・生徒及び教員のアンケートでスタディサプリ活用の肯定的評価70%以上	<u>達成度</u> ・教育活動において使用したものが76.5%であった。 ・生徒79.1%、教員76.5%であった。		
		① ② ③	・総合的な探究の時間において、探究の見方・考え方を働かせ、生徒の興味・関心に基づく課題について、横断的・総合的な学習を行うことを通して、課題を発見し解決していく資質・能力を育成する。	<u>活動計画</u> ・調べ方や問いの立て方についての知識を習得した後、設定されたテーマに沿って各自の視点から「問い」を立て、個人において研究し、その成果を発表させる。 ・関心のある分野ごとグループに分かれ、各分野の専門家を招き、幅広い教養の習得に結びつける。	<u>実施状況</u> ・1学年において探究活動を始める前に、調べ方や問いの立て方についての知識を習得する時間を設定し、効果があった。 ・1学年後半、2学年前半において、関心のある分野ごとにグループに分かれて、各自の探究を深めた。分野ごとに専門家を招く活動はできなかった。	<u>評定</u> B	・今年度は生徒授業や校内での探究活動に重きを置いたので、校外から専門家を招く活動はできなかった。来年度は大学の出前授業等を活用して幅広い教養や世界とむきあう活動を増やしていきたい。 ・総合的な探究の時間や各教科の指導計画に松高ルーブリックが反映されており、生徒が松高ルーブリックを意識して学習活動や生活を送るようになってきている。
				<u>評価指標</u> ・松高ルーブリック自己評価アンケートで自分とむきあうの項目レベル2以上を達成してる生徒を70%以上にする。	<u>達成度</u> ・松高ルーブリックの自分とむきあうの項目レベル2以上を達成している生徒は1学年72.3%、2学年96.7%、3学年96.8%、全学年88.5%であった。		
				<u>活動計画</u> ・年度初めの職員会議でホームページの記事の書き方を説明する。	<u>実施状況</u> ・年度初めの職員会議資料にホームページ更新の仕方を記載し、職員に呼びかけた	<u>評定</u> B	・来年度からはホームページシステムがネットコモンズからコネクトCMSへと変更となるので、年度初めに職員への研修が必要である。
				<u>評価指標</u> ・ホームページの更新回数について、A:160回以上 B:140～159回 C:140回未満とする。	<u>達成</u> ・更新回数が158回であった。		
	こころとからだの支援課	I ②	・基礎的な生活習慣を確立する。	<u>活動計画</u> ・自主自律の日に自分の生活を振り返る。 ・手洗い、うがいの習慣を継続させる。	<u>実施状況</u> 担任の先生を中心に根気強く呼びかけてもらった	<u>評定</u> B	・1年を通して、感染症対策についての啓発を行う。 ・保健厚生委員、人権委員の活動を通して、生徒全体の啓発活動を充実させる。 ・自主自律の日という時間を設けることは、自己を振り返ることに有効である。
				<u>評価指標</u> ・基本的生活習慣に関する設問の評価を80%以上にする。	<u>達成度</u> 教員97.0 生徒83.3 保護者85.3% で達成できた		
		I II ② ③	・健やかなこころとからだをつくる。	<u>活動計画</u> ・人権委員会を中心に行事の参加に努める。	<u>実施状況</u> 人権委員の中で分担して各種行事に参加した。人権作文はほぼ全員の提出があった。	<u>評定</u> A	

<p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>I 自分を知り、目標を持ち、前進できる、自分とむきあう力の育成</p> <p>II 人と関わり、相手を認め、協力し合える、人とむきあう力の育成</p> <p>III 世界・地域を知り、社会貢献できる、世界とむきあう力の育成</p> <p>【令和6年度重点課題】</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの実現（授業改善）</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④スタディサプリ活用推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>	活動 創生課			<p>・人権意識を高めるため、人権作文を生徒全員が書くよう指導する。</p>			
				<p>評価指標</p> <p>・人権に関する設問の評価を80％以上にする。</p>	<p>達成度 教員97.2 生徒90.2 保護者83.9％ で達成できた</p>	<p>所見 校外での活動は遠隔地ということもあったが、参加して意識を高めた。</p>	
		③-1	<p>・部活動に加入している生徒一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。</p>	<p>活動計画</p> <p>・各部活動の年間活動計画と目標をもとに、個人目標を設定する。 ・「松高・未来のための手帳」を活用し、月ごとに活動の記録や感想、学んだこと等を記入する。</p>	<p>実施状況</p> <p>・全ての部、部員が年間目標を設定し、年度末に評価した。 ・部長会議を毎学期実施し、部長を通して手帳への目標や結果の記録を呼びかけた。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>・今後も生徒、教員数が減少することが想定される。生徒が充実感を持って活動するためには、安心、安全で持続可能な活動ができるように、部活動の活動内容の見直しや部活動の統合を適宜見直すことが必要である。また、顧問に無理のない活動になっているか、学校全体として把握しておくことが大切である。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒が70％以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>・年度末に91%の生徒が充実した活動ができていますと回答した。</p>	<p>所見</p> <p>・目標に向かって活動し、充実感を持って活動している生徒が多い。</p>	
		③-2	<p>・生徒会役員一人一人が目標を設定し、活動に取り組むことができる。</p>	<p>活動計画</p> <p>・生徒会で活動計画と役割分担を決め、一人一人が個人目標を設定する。 ・毎週木曜日に活動の振り返りと次の活動の準備を行う。</p>	<p>実施状況</p> <p>・各行事毎に計画と役割分担を決め、目標を持って活動した。 ・毎週木曜日と行事等の前後にミーティングを行い、準備を行った。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>・本校は中学時にリーダー経験の少ない生徒が多い。校内外の様々な機会を通してリーダーシップのある生徒を育てていくことが大切である。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒が70%以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>・71%の生徒が充実した活動ができていますと回答した。</p>	<p>所見</p> <p>・行事の計画や司会等の運営、県教委主催の会議への出席やメディアからの取材を通して、目的意識を持った活動をした。</p>	
		③-3	<p>・とくしまGXスクールの活動を通して、SDGsにつながる校内外の生活環境を整える。</p>	<p>活動計画</p> <p>・各ホームルームで環境目標を設定し、教室に掲示する。 ・毎日の清掃と資源ごみの分別を徹底する。 ・校外の清掃奉仕や、松原の育樹ボランティアに積極的に取り組み、SDGsにつながるアクションを起こす。</p>	<p>実施状況</p> <p>・各ホームルームで環境目標を設定し、教室に掲示した。 ・毎日の清掃と資源ごみの分別の徹底に取り組むことができた。 ・校外の清掃奉仕や、松原の育樹ボランティアに積極的に取り組み、SDGsにつながるアクションを起こすことができた。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>・各生徒のSDGsに対する意識には差があるように思われる。世界と向き合うために、まずは各生徒レベルで脱炭素社会の実現に向けての更なる意識付けを行う必要があると考える。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・とくしまGXスクールの継続認定を受ける。 ・自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒が70%以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>・とくしまGXスクールの継続認定を受け、自己評価アンケートで「充実した活動ができています」と回答した生徒は90.0%であった。</p>	<p>所見</p> <p>・各クラスでのゴミの分別や節水・節電呼びかけの活動をはじめ、環境委員によるゴミ庫での分別の徹底 等を通してSDGsにつながる活動を継続して行うことができた。本校のこれまでの活動を継続するだけでなく、今後はより積極的な SDGs達成への活動を広げていきたい。</p>	
		③ ⑤ III	<p>・小松島松原の育樹活動や地域のボランティア活動への参加を通して、社会貢献への意欲を持った生徒を増やす。</p>	<p>活動計画</p> <p>・集会やホームルーム活動でボランティア活動の意義や認証登録について説明する。 ・ボランティア推進委員が中心となって、ボランティアの案内と参加者を募る。 ・「松高・未来のための手帳」を活用し、活動ごとに内容や感想、学んだこと等を記入する。</p>	<p>実施状況</p> <p>・1学期に各学年の参加希望者に対して集会を実施し、説明を行った。 ・松原育樹ボランティア活動については、推進委員が参加し、案内した。 ・手帳に記録したり、自分のスマートフォンに活動の写真を残したりすることを説明会で呼びかけた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>・生徒が社会と接点を持つ機会が増えたことは良かった。生徒に対して有益な活動であった一方、平日に行う活動では授業を公欠しなければならないこと、部活動との両立の難しさ、関係者との打ち合わせや生徒への指導、準備等による教員の仕事量の増加等、検討しなければならないことが多い。 ・松原育樹ボランティア活動については、暑熱環境下で行う場面が多くなっており、必</p>
				<p>評価指標</p> <p>・松原の育樹活動を5回以上実施する。 ・ボランティアの参加者を全校生徒の60%以上とする。 ・小松島市ボランティア活動貢献学生認証</p>	<p>達成度</p> <p>・松原の育樹活動を5回実施した。 ・80%の生徒が1回以上ボランティアに参加した。 ・78名の生徒が登録された。</p>	<p>所見</p> <p>・松原の育樹活動は6回設定していたが、感染症の影響で5回実施となった。南小松島駅前プロジェクトや高齢者スマホ教室等、小松島市役所と共同で行うボランティア活動が増えた。</p>	

<p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>I 自分を知り、目標を持ち、前進できる、自分とむきあう力の育成</p> <p>II 人と関わり、相手を認め、協力し合える、人とむきあう力の育成</p> <p>III 世界・地域を知り、社会貢献できる、世界とむきあう力の育成</p>				登録者を80人以上とする。			ず注意を呼びかけてから参加させる必要がある。
		③ III	・防災学習を通して、さまざまな災害に対応し、行動できる力を育成する。	活動計画 ・防災ホームルーム活動と災害別の避難訓練（うち1回は地域との連携）を実施する。 ・避難訓練後はアンケート（自己評価）を行う。	実施状況 ・防災ホームルーム活動と災害別の避難訓練（うち1回は南小松島幼稚園、光保育園、社会福祉協議会と連携）を実施した。また、日赤やNHK、自衛隊の協力を得ての防災学習も行った。 ・避難訓練後はアンケートを実施した。	評価 A	・災害への危機感は年々増してきているが、実際に際したら現行の訓練通りにいかないことが多々あると感じる。今年度は、避難所となったときのための訓練も実施した。 ・次年度は、さらに実際に際した場合に備え、火災と地震、津波に加えて高潮・浸水についても取り組みたい。
				評価指標 ・防災学習（ホームルーム活動や避難訓練など）を3回以上実施する。 ・アンケートの回収率を80%以上とする。	達成度 ・防災学習を6回以上実施した。 ・アンケート回収率は90%で、各自真剣に危機管理について考えていた。	・地域と連携した避難訓練が定着してきた。 ・それに加え今年度は、日赤やNHK、自衛隊の協力を得ての大規模な防災学習を3度行うことができ、防災的視野を広げ、行動に起こすことの大切さを学んだ。	
	1学年	① ② I	・松高ルーブリックレベル1を満たす生徒を育成する。	活動計画 ・松高・未来のための手帳の活用の充実。 ・総合的な探究の時間（PK）において、自己肯定感を高め、自らの目標を明らかにできる態度を育てる。 ・松高生の一員であることを自覚し、社会貢献に意欲的に取り組めるようにする。	実施状況 ・活動計画事項はすべて実施できた。	評価 A	・松高・未来のための手帳については、引き続き使用の頻度を高める取組を継続する。 ・PK等における発表に対して過度なストレスや苦手意識を持つ生徒への支援について、検討する必要がある。
				評価指標 ・松高ルーブリック自己評価アンケートによって、レベル1を満たす生徒を80%以上にする。 ・ボランティアの参加者を1学年生徒の70%以上とする。	達成度 ・レベル1を達成した生徒は100%だった。（未回答4名） ・転・休学者を除く在籍166名中、参加人数は114名で69%。達成とみなしてよい。	所見 ・各担任の協力で、定期的に手帳をチェックする機会を設けた。 ・PKにおいては「調べる→考える→行動する」を意識させた。校外での調査に挑戦する生徒もあり、周囲に刺激を与えた。	
	2学年	①	・家庭学習の充実を図る。	活動計画 ・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前（5回）に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し、振り返る習慣をつけさせる。 ・毎日の生活で手帳の活用が習慣化するよう働きかける。	実施状況 ・日々の学習時間管理や、個々が必要とする情報について記録し振り返る習慣が身につくように生徒に働きかけた。 ・各クラスで規則的な提出を促す。	評価 B	・手帳を活用し、必要な情報の把握を習慣化できるようにクラス単位で取り組む。 ・学習習慣が身についていない生徒に、個に応じた学習方法などを指導する。
				評価指標 ・家庭学習時間2時間以上の生徒を25%以上、1時間未満の生徒を30%以下とする（4月と9月のスタディサポートで評価）。	達成度 ・家庭学習時間2時間以上は11.9%が6.5%。1時間未満は65.1%が20.7%と減少し学習時間の少なかった生徒に変化が見えた。	所見 ・手帳の効果的活用は、まだ学年全体に浸透するまでには至っていない。 ・学習に向かう生徒の数は増えたが、授業課題取り組むくらいで全体的に学習時間は少ない。	
		⑤	・保護者対象進路説明会を実施する。	活動計画 ・学校での生徒の状況や進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。必要に応じて個人面談も実施する。	実施状況 ・今後の進路に向けて必要と思われる情報を各担当ごとに絞って提供できた。個別面談も適宜実施した。	評価 B	・対面とオンラインの両方で実施したが、当日オンライン参加者の欠席が目立った。 ・次年度実施では、進路・就職とにより具体的な情報を提供し、保護者の関心を増やしたい。
				評価指標 ・保護者対象進路説明会の出席者数を80名以上とする。	達成度 ・オンライン参加も含めて73名の参加があった。	所見 ・評価指標は達成できなかった。	
	3学年	③	・生徒の主体性を活	活動計画	実施状況	評価	・生徒個人の思いを知ること

<p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>I 自分を知り、目標を持ち、前進できる、自分とむきあう力の育成</p> <p>II 人と関わり、相手を認め、協力し合える、人とむきあう力の育成</p> <p>III 世界・地域を知り、社会貢献できる、世界とむきあう力の育成</p> <p>【令和6年度重点課題】</p> <p>①主体的・対話的で深い学びの実現（授業改善）</p> <p>②キャリア教育の充実</p> <p>③生徒主体の活動の充実</p> <p>④スタディサプリ活用推進</p> <p>⑤開かれた学校づくりの推進</p> <p>⑥働き方改革の推進</p>			<p>かす取り組みをする。</p>	<p>・生徒の生の声を記事にして3年生新聞を発行する。</p>	<p>・各回テーマに対し生徒個人の思いを形にした。</p>	<p>A</p>	<p>ができ好評であった。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・3年生新聞を年間10回発行する。</p>	<p>達成度</p> <p>・計10回発行した。</p>	<p>所見</p> <p>・計画通りの取り組みができた。</p>	
		<p>①</p> <p>②</p>	<p>・生徒が主体的に目標や実行プランを明確にし、自己反省・自己管理を行う中で、自らの進路の実現を目指す。</p>	<p>活動計画</p> <p>・目標設定や実行プラン等を松高・未来のための手帳に記録し、具体的に実現までの道筋を考えさせる。</p> <p>・日々の記録や目標に向けての進捗状況などを面接等で手帳を介して確認し、生徒の実態を分析する。</p> <p>・手帳に学習時間を記録したり、定期考査前に学習マラソンを実施したりして、学習時間を記録し振り返る習慣をつけさせる。</p>	<p>実施状況</p> <p>・進路目標の設定や、具体的なスケジュール管理等で活用するよう働きかけた。</p> <p>・学習時間の記録や管理、学習マラソンへの取組で一定の活用があった。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・今後も手帳を活用する良さやよい事例を紹介し、必要とする情報のまとめ方や使い方の利便性を伝える。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・松高・未来のための手帳を活用し自己管理や学びの整理に利用した生徒の割合を70％以上にする。</p>	<p>達成度</p> <p>・効率的に手帳が活用できた生徒の割合は70％であった。</p>	<p>所見</p> <p>・計画通りの取り組みができた。</p>	
		<p>⑤</p>	<p>・保護者対象進路説明会を実施する。</p>	<p>活動計画</p> <p>・保護者対象進路説明会では、生徒の状況報告や、進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また、必要に応じて個人懇談を実施する。</p>	<p>実施状況</p> <p>・保護者対象進路説明会を5月11日に実施した。進学・就職別に同時開催し、生徒の状況や進路に関する情報を提供した。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・保護者が求める進路情報をできるだけ多く提供できるように事前に計画する必要がある。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>・進学・就職あわせて97名の参加があった。</p>	<p>所見</p> <p>・対面形式の説明会を実施した。進路に対する保護者の関心の高さを改めて感じた。</p>	
	管理職	<p>①</p>	<p>・主体的・対話的で深い学びを目指した授業力の向上を図る。</p>	<p>活動計画</p> <p>・各教員が目標管理シートに授業改善の目標を記載する。</p> <p>・授業公開及び授業力向上研修を実施する。</p>	<p>実施状況</p> <p>・年度当初に授業改善テーマを決め目標管理シートに記載した。</p> <p>・研修では高校教育課の酒井課長の講義や、カフェ形式のグループ協議など、工夫を凝らした取組ができた。</p>	<p>評定</p> <p>A</p>	<p>・生徒授業・探究活動、松高ループリック活用、スタディサプリ活用に学校全体で取り組む。授業相互参観等の研修で個々の力と組織力を向上させる。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・生徒及び教員の授業改善に関するアンケートの肯定的評価80％以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>教員、生徒の肯定的評価はそれぞれ97.1%、89.8％</p>	<p>所見</p> <p>人権指定事業等の関係で研究授業が多くあり、教員のスキル向上に繋がったが、授業公開月間については、もう少し全体で取り組みたい。</p>	
		<p>⑥</p>	<p>・働き方改革を推進する。</p>	<p>活動計画</p> <p>・業務の効果や目的に注意しながら、教育力低下につながらないよう業務の削減・効率化を図る。</p> <p>・教員の健康に関する意識の向上を図る。</p>	<p>実施状況</p> <p>・中間考査の追試、3年生学年末考査の廃止、長期休業中模試の平日開催などの取組を行った。</p>	<p>評定</p> <p>B</p>	<p>・働き方改革の推進は重要な課題であるが、学校独自の取組だけでは限界がある。県教委等と連携をとり引き続き業務内容の精選を行っていく。</p>
				<p>評価指標</p> <p>・超過勤務月80時間以上の教職員の割合を10％以下とする。</p> <p>・「業務の効率化や業務改善に取り組んでいる」の肯定的評価を75％以上とする。</p>	<p>達成度</p> <p>・80時間以上の月平均の割合は7.3人で全体の16%</p> <p>・業務改善に対する教員の肯定的評価は80.0％で18.9P上昇した。</p>	<p>勤務時間や負担感の軽減には繋がっていない。</p>	

学校関係者評価

令和7年3月17日(月)に開催された、第3回小松島高等学校学校運営協議会において、今年度の学校評価総括評価表について協議され、次の提言を頂いた。 ・災害発生時に命を守る防災教育の講演会導入の提言 ・小松島高校の魅力を生徒自身が更に発信する機会の導入 ・ボランティア活動等において、課外で行っている活動を学習時間内に取り入れることの検討
--